

令和4年度 社会福祉法人 進和学園 事業報告

令和4年度は、基本理念「本人中心」のもとに、“一人には一人のひかり”の精神をもって、七つの輪（ご本人、ご家族、地域社会、ボランティア、行政、職員、法人役員）の連携のもと、障がい部門、保育園部門、学童保育部門では、利用者ご本人と子どもたちの支援充実のために、法人職員が各事業活動に一丸となり取り組みました。しかし、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に対する引き続きの感染予防対策と自粛制限による影響に加えて、不安定な世界情勢と環境エネルギー問題からくる電気料をはじめとする物価高騰は、運営費を圧迫する要因となりました。県市行政からの助成金を活用しましたが、今後の対策は大きな課題になっています。

新型コロナウイルス感染症については、国内での感染は令和2年当初より始まり令和4年度も依然として続きました。流行の波はありながらも感染力の強いオミクロン株に、当法人内の施設は大きな影響を受けました。5月から8月にかけて順次に、やましろホーム、万田ホーム、あさひホームでクラスターが発生し、令和5年1月には、はばたき、ルネッサンスでクラスターが発生しました。その間、放課後等デイサービス、グループホームでも散発的に発生、旭学童保育会第2では8月に5日間の閉所を余儀なくされました。そのような状況のなか県市行政の助言指導等をいただきながら、感染拡大防止対策に取り組みました。嘱託医の北山先生のご配慮によりコロナワクチンの確保とともに施設内の集団接種を、令和4年度内に4回目接種（8月・9月）、5回目接種（1月）に希望するご本人、職員に対して実施出来たことは感染予防、重症化を防ぐ上で大変効果がありました。令和4年度も社会的な活動、イベントが自粛される中、進和学園のご本人の活動や生産活動も制限せざるを得ない状況もありましたが、進和学園として感染予防対策マニュアルを随時更新し、感染予防対策の徹底に努めると共に、感染流行の波のはざままで出来る限りの活動を継続しました。

令和4年度は、新規事業として次の2点に取り組みました。ひとつめは、生活困窮者自立支援法に基づく認定就労訓練事業を神奈川県より令和4年10月4日付で、しんわろルネッサンスが実施事業所として認定されました。生活困窮者に対し就労の機会の提供を行うとともに、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行う事業であり、平塚市（福祉部福祉総務課）をはじめ神奈川県、ハローワーク等の関係専門機関、サンシティひらつかと連携し推進していきます。ふたつめは、平塚市支援対象児童等見守り強化事業（居場所型）を平塚市より受託し、旭学童保育会第1を拠点に「こどもスペース∞（無限大）」を令和5年2月から開設しました。運営は放課後等デイサービス部門と学童保育部門が中心となり取り組み、子どもたちの居場所づくりと相談支援を通して家庭内の困りごとやヤングケアラー等の課題解決に向けて取り組んでいます。また継続事業として令和3年度に引き続き、神奈川県より障害者支援施設等意思決定支援モデル事業を進和あさひホームで受託し、モデル事業の諸課題に取り組みました。

障がい部門は、利用者ご本人の生活支援・就労支援・相談支援を推進しました。生活支援は、年々進む重度化、高齢化の波を受けての健康管理と安全確保に努めるとともに、コロナ下の制限もありましたが、出来る限り地域生活を支えるセーフティネットとしての拠点機能の対応に努めました。就労支援は、年々厳しくなる経済状況の中で工賃確保という諸課題に組み、新商品の開発や作業種拡大の準備に努めました。相談支援は、生活・就労両面にわたる支援などご本人の多様化するニーズと課題に向き合い支援充実の努めました。権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に各施設で引き続き取り組みました。

保育園部門は「いずみ」「富士見」「しらゆり」の3園とつどいの広場「どれみ」が連携して、地域に根ざした子育て支援を推進しました。コロナの感染状況に注意しながらも、保育参加や保育懇談会を再開し、保護者との情報の共有及び保育内容の理解を深めました。

学童保育部門は「勝原学童保育会第1・第2」「旭学童保育会第1・第2」の4単位となり、増える利用児童と手狭な活動スペースの中で、コロナの影響もあり受入についての配慮も要しました。勝原

学童保育会第 2 については第 1 に隣接する空き室を整備し 9 月より活動スペースが拡がりました。平塚市、学校等と連携し、法人内施設の応援も受けて保育の充実に努めました。

今後の生活体系に係る施設再整備計画については、安全対策をはじめ個室化、ユニット化、定員等の条件や様々な課題があります。県市の障がい福祉計画と今後の動向、現実的なニーズを鑑み慎重に検討を継続していきます。

福祉・介護職員処遇改善事業については、臨時特例交付金は、3 年度後半の 2 月から始まり 10 月よりベースアップ加算となりました。その加算と処遇改善事業の現行加算、特例加算を合わせて、障がい部門は令和 4 年度より支給方法を一時金から職務手当としての月額支給に切り替え、月給及び時給単価の増額を図りました。保育部門、学童部門についても支給条件に若干の違いはありますが、賃金改善の目的を果たしました。公益的な取組みについては、コロナ下でも出来る限り継続に努めました。

以上、地域のニーズに応じて貢献する社会福祉法人としての役割を認識して、「共に生きる」社会の実現に向けて取り組みました。

I <<重点課題 法人運営>>

1 新型コロナウイルス感染症対策について

令和 4 年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大があり、7 波が 7～9 月、8 波が 11 月～翌年 1 月にありました。感染防止対策を引き続き徹底してまいりました。進和学園でも感染の影響により活動の縮小、中止をせざるを得ない状況となりました。また各施設でもクラスターが発生しました。5 月 18 日(水)～6 月 10 日(金)、やましろホームで利用者 58 名、職員 35 名。7 月 20 日(水)～8 月 3 日(水)、万田ホームで利用者 18 名、職員 2 名。8 月 10 日(水)～9 月 10 日(土)あさひホームで利用者 53 名、職員 10 名。12 月 30 日(金)～1 月 18 日(水)ルネッサンスで利用者 11 名、職員 10 名。1 月 4 日(水)～29 日(日)、ははばたきで利用者 13 名、職員 4 名。行政専門機関と相談し円滑な対応に努めました。

ワクチン接種につきましては、囑託医の北山先生のご尽力により、行政の協力のもと 8 月、9 月に第 4 回目 572 名、1 月に第 5 回目 525 名が接種できました。

2 役員・評議員会開催について

令和 4 年 6 月 2 日の理事会、6 月 21 日の評議員会はやましろホームが 5 月 20 日にコロナウイルスクラスター感染となり、まん延防止対策のため書面評決となりました。11 月 24 日の理事会はコロナウイルス感染症も小康状態になり対面開催を予定していましたが理事のみなさんの日程調整ができず 12 月 15 日に延期し開催できました。3 月 28 日の理事会は予定通り開催となりました。

3 放課後児童健全育成事業「勝原学童保育会」「旭学童保育会」について

令和 2 年度から「勝原学童保育会」の運営を平塚市から受託して 3 年、令和 3 年度から「旭学童保育会」の運営を受託して 2 年が経過しました。いずれも保護者会の要望を受けて引き継いだものです。3 年続いてコロナ下の運営となりましたが、進和学園としては専任職員、療育アドバイザーを配置して学童保育部門の強化を図り、本部事務局機能等で総合的に学童保育会の運営をバックアップしました。職員は障害部門から学童部門への応援体制の継続、学童部門から障害部門への施設見学等を通して理解を深めました。子どもたちは「しんわやえくぼ」での陶芸体験等のプログラムへの参加等を通して、福祉へのふれあいを進めてきました。

4 福祉人材の確保・育成について

新卒採用の推進は採用人事サポートチームを中心として、コロナ対策に対応したオンライン面接等を継続的に活用し積極的に取り組みました。新卒者の福祉人材が不足する中、サポートチームの

気さくで親しみやすい対応により令和4年度は障がい部門13名、保育園部門3名、学童部門1名を採用しました。中途採用は日本知的障害者福祉協会の紹介サイト(リクオプ)、ハローワーク、インディード、職員の紹介等により令和4年度中に障がい部門7名、保育園部門1名、学童部門6名を採用しました。育成については、職員養成委員会、人材育成・人事考課制度委員会、人権委員会などにより、階層別研修、スーパーバイザー方式の活用、キャリアアップ研修等を推進しました。外部研修への参加はコロナの影響もあり、オンラインを活用し、推進しました。

5 公益的な取組について

令和4年度もコロナの影響はありましたが、地域のニーズを事業に反映し、先駆的、創造的事業に取組める体制を、出来る範囲で推進しました。公益的な取組については、在宅障がい者に対する食事提供(実費)・生活支援、平塚市民の花「なでしこ」の苗栽培と無料配布(平塚市役所・なでしこ地区等)、湘南平あじさい管理、陶芸体験教室、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力等に取組みました。

II <<重点目標 施設整備>>

1 やましろホームの住環境の整備について

ご家族の高齢化により、今後家族のかたちが変わっていきます。そのための準備として、通所のご本人の生活基盤を家庭からグループホームへ移し、夜間の生活はグループホームで、日中の活動はやましろホームで、という事業所間で連携してご本人の生活を支える必要性が高まってくると思われれます。発達障害や行動障害をお持ちの方のグループホームの建設拡充が必要ですが、緊急時にすぐにグループホームでの生活は難しいこともあり、ご本人の普段の様子やご家族からも生活の安定のためには入所施設の機能が必要であるという声が多くありました。通所利用者の方については、ご本人が家庭以外の生活の場を選択できるような短期入所の経験をしながら、生活の場を含めた意思決定支援につながる取組みを始め、法人で取得した一戸建て住宅を利用した支援等も予定していましたが、新型コロナウイルスのクラスター感染等により思うような展開ができませんでした。ご本人の生活や暮らしに対するニーズは多様であることから、そのニーズに応えられるようなサービスの提供と、建て替えを含めた個室化、ユニット化の検討をしましたが、居室についてはこれ以上の個室化は難しい状況です。

また、万田・高根地区の総合的な再整備については、進和やましろホームをはじめ進和あさひホームの老朽化や、土砂災害警戒区域にあるしんわやえくぼの安全対策を含めた総合的な整備になるため、国県市の障害福祉計画との整合性も踏まえて検討しているところです。

2 多様なニーズに対応するグループホームについて

グループホームを利用されているご本人について、現在は障がいの重い方、高齢の方なども利用するケースが増えてきております。よって多様化するニーズに対応できるようなグループホームが必要となっています。休日・夜間体制の人員配置強化、身体的介護、健康管理、栄養管理の強化を図り、障がいの重い人でも利用できる体制が必要となり改善に努めました。法人で取得した万田地区一戸建て住宅を活用して、体験型グループホームが実施できるよう検討に入りました。

III <<重点目標 施設運営>>

1 保育園部門の運営について

一年を通して、園児・保護者・職員等の新型コロナウイルス感染症の感染が続き、4月には保育所、7月には園内クラスの一部が臨時休園する事態となりました。自治体の「with コロナ」の方針により運動会や生活発表会など園行事に関しては、感染予防対策を取りつつ人数制限などの対応をしながら実施しました。感染状況を見ながらではありましたが、保護者の方々に保育所での子ども達の姿を見ていただき、一人ひとりの子ども達の成長を共有することが出来ました。

2 人材育成の推進について

人材育成・人事考課制度委員会を中心に行う階層別研修はリモートで実施し、リモート上でグループワークなども経験しました。各施設でのスーパーバイザー方式は主に専門研修修了者のバイザーが新任職員など経験年数の少ない職員の人材育成・定着を図りました。成果につきましては中間報告会・年度末報告会をリモートで実施しました。キャリアアップ研修、国家資格取得奨励を、職員養成委員会を中心に行いました。職員の資質向上に資する外部を含めた研修(オンラインも含む)参加を、職員個々の希望もくみ取って推進しました。

3 職員研修について

法人内事業所でも複数のコロナ陽性者の出る状況の中で、時期を見ながら研修活動をおこないました。意思決定支援をテーマとした講演会を11月にZOOMにて59名が参加しました。また施設現場見学会(8名参加)は2回に分けて小人数で実施しました。理事長講話会はオンラインで5名が受講しました。法人内交流研修と職員ボウリング大会は中止としました。いろいろな制約のある中での職員レクリエーション事業は、今後も内容等について模索、検討する必要を感じました。そのような中、4年度は「職員ガイドライン～基本編～」が初版から10年近く経過したため、時代の動向や法制度の変遷を内容に盛り込み第2版として刊行しました。

4 人事考課制度の確立について

法人理念を基に職務遂行・貢献度に応じた自己評価・施設評価・法人評価を給与面・昇給等に反映している等制度として定着してきました。現場の職員の意見を聴いたり、人材育成・人事考課制度委員会で少しずつ進和学園として、より適正な評価に近づく内容を検討しました。

5 運営システムやITの活用等について

長期化するコロナ禍において、法人施設間の会議・打合せはZoom、Skypeなどのオンラインツールを使った遠隔形式が浸透しました。移動時間の削減や資料のデータ化はもとより職員個人のスキルアップにつながり、今後の施設運営にも役立つものと思われます。また月に1度HP・IT推進委員会を開催しホームページや日誌(運営)システムの更新・チェックに努めました。特に現代社会の情報発信ツールであるホームページはタイムリーな更新に注力しました。セキュリティ面での管理にも継続的に取り組みました。

6 生活体系の検討・推進について

- ① ビーライトしんわ及びしんわブライートの放課後等デイサービス事業・・・放課後支援部門(ビーライト単位2:定員10名)と発達障がい児グループ活動部門(ビーライト単位1:定員10名、ブライイト:定員10名)の2種類のサービスを提供しました。利用実績は、放課後支援部門で1,729件(稼働率69.4%)、発達障がい児グループ活動部門ではビーライト単位1は1,780件(稼働率71.5%)、ブライイトは1,704件(稼働率68.4%)でした。平成24年度の児童福祉法改正以降、平塚市内の放課後等デイサービス事業所が9カ所から35カ所へと増加の一途を辿りサービス利用が分散化されてきた事業環境の変化を受け、ビーライト単位2では登録者数減少と学校休業日は家庭で過ごす利用形式を採る児童の増加による稼働率の低下が前年度より続いています。さらには、6月から9月にかけての新型コロナウイルスの感染拡大期を中心に、感染症に直接的、間接的にかかわる事由での欠席が増え、部門全体で稼働率の大幅な低下を余儀なくされました。利用児童ご本人と職員の感染による行政指導による閉所、職員の感染による受け入れ体制確保困難を事由とする閉所、利用予定者全員の利用自粛による閉所がありました(各部門の閉所日数:ビーライト単位1・・・7日。ビーライト単位2・・・6日、ブライイト・・・10日)。行政機関との相談協議を踏まえて感染拡大防止策を徹底し、感染を広げることなく終息に至りました。

放課後支援部門は、下校時刻に学校へ迎えに行き、施設で過ごした後自宅に送っており、ご本人が安心して過ごせる場を提供すると同時に働く保護者の就労支援にもなっています。

発達障がい児グループ活動部門は、心理社会的に多様で複雑とならざるをえない発達障がいへの専門性の高い支援ニーズに応えるべく、グループならではの集団力動を活用したさまざまな運動課題やコミュニケーション課題を取り入れたグループ療育支援を提供しました。ご本人たち一人ひとりの発達特性への理解を深め、発達のバランスを整えるきっかけづくりとしての総合的な発達支援に取り組みました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための衛生対策を徹底すると共に、グループ活動課題についてもご本人たち同士の近接を極力減らし接触を回避する様式の提供を継続しました。そのほか、平塚市子ども教育相談センターとの連携の下、平塚市立小中学校の巡回相談を実施しました。また、学校の先生方からの直接相談にも数多く対応し、普通級に在籍する発達障がい児のための学習環境の整備や対応支援方法の検討に協力しました。

- ② 保健活動は特に新型コロナウイルス感染症の防止対策として引き続き衛生管理の徹底をしてまいりました。保健委員会と法人、施設長会の協調のもと、利用者ご本人、ご家族および職員に対して注意喚起文を発出しました。

入所施設に限らず、通所系の事業所においても、ご本人、ご家族の高齢化が進んでおり、通院等の協力も行っております。総合的な保健協力体制、支援技術の向上に努めました。利用者ご本人の通院に関する業務や内服薬の管理、毎月の血圧・体重の計測、日常の衛生への呼びかけを実施。また年2回の嘱託医による健康診断をはじめ、各種検査（胸部レントゲン、血液検査、尿検査、検便等）の他、口腔健診も実施しました。人間ドック（87名受診）の結果をふまえ、健康の維持・増進、疾病の早期発見・早期治療を図るため個別的な具体策を計画・実施しました。インフルエンザ対策としてはワクチンの接種（利用者と職員の全体で647名）を実施し、肺炎球菌ワクチンも対象者に接種しました。また職員の人間ドックについては健康助成規定により実施（137名受診）しました。

- ③ 防火管理者会では各事業所の本人防災委員と共同で活動しました。毎年、平塚市災害対策課、地域消防団の協力のもと、総合防災訓練をおこなっています。今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため縮小しましたが、11月9日に万田・高根地区で、11月15日に土屋・吉沢地区で行いました。その他にも毎月1回、各事業所で地震・火災のみならず、近年増加している自然災害を想定した非常災害訓練も行いました。

AED・心肺蘇生法の技術の向上を目指し、講師の資格を保有している職員が講師となり講習会も行いました。また、新型コロナウイルス感染症の対策については、法人・施設長会や、その他の委員会と連携して行いました。

- ④ 地域生活支援の拠点機能として、法人全体で、短期入所枠は計26床（やましろ4、あさひ4、はばたき10、万田8単独型）あり、在宅で障がいのある方の地域生活を支える機能、グループホームのバックアップ機能、緊急ケースの対応などの機能を果たしています。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、法人内各施設、事業所において、クラスターの発生や陽性者、濃厚接触者も多くありました。各施設、事業所は感染防止のため、陽性者の療養期間終了までについて、やむを得ない事情で利用される方以外のご利用については、ご理解、ご協力のもと、調整させていただきました。

令和4年度の実績は、万田ホームは短期入所2,578件、日中一時支援786件。やましろホームは短期入所1,232件、日中一時支援279件。あさひホームは短期入所1,042件、日中一時支援151件。はばたき進和は短期入所1,913件、日中一時支援105件を実施しました。

7 意思決定支援

神奈川県で創設した障害者支援施設等意思決定支援モデルの普及想定モデルを進和あさひホー

ムが受託しました。

実際に利用者 3 名を選定し利用者ごとにチーム(ご本人・アドバイザー・相談事業所担当者・市障がい福祉課・県共生推進本部室・ご本人の担当職員・サビ管・施設長)を編成しました。年 5 回の会議をそれぞれ開催し「意思決定支援に係る手掛かりシート(ヒアリングシート)」の作成をしました。3 名の方の生い立ちや嗜好等を深堀することで、なお一層のご本人の姿が見れるようになり個別支援計画の作成に役立てました。

進和学園全体でも、各施設でモデル事業の取り組み(意思決定に係る手掛かりシート作成)を少しずつ取り入れていくことができました。

8 相談支援事業について

サンシティひらつかにおいて、平塚市委託事業である障害者一般相談 6,954 件や障害サービス利用計画 779 件(成人計画 242 件、モニタリング 524 件、児童計画 5 件、モニタリング 8 件)、障害認定区分調査 72 件を実施。

就労支援事業では、新規就労支援や定着支援を実施し、登録者は 806 名(R4 年度末)で相談支援件数は 6,564 件でした。相談支援対象者の数は年々増加。特に精神障がい者、発達障がい者の増加が著しく相談支援件数の 44%を占めています。難しいケースも多くなり、高い支援スキルが求められています。他にも地域の自立支援協議会就労支援部会を開催したり、関係機関との連携を強化することで湘南西部圏域の障がい者就労支援の中心的役割を果たしています。障害者一般相談、就労支援の両部門ともニーズの高まりと多様性が深まっており、事業の推進に努力しました。

9 作業体系について

- ① ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業様のご支援のもと発注を頂いて 49 年目になります。おかげ様で評価として 56 か月「ミスゼロ」を更新中です。令和 4 年度は半導体不足並びにコロナ禍に伴う生産調整や大幅な減産があり、生産量は過去最低の水準でした。しかし加工賃収入は、本田技研工業様の特段の支援により部品価格の改定が行われ、加工賃収入は 78,739 千円となり、前年比度 0.7%減と微減で留まることが出来ました。引続き(株)研進との協同で受注確保に努めるとともに、品質保証の取り組みとして ISO9001 の推進・更新を行い「ミスゼロ」を目指します。
- ② 自主生産事業の作業収入はコロナ禍ではありますがイベント等も徐々に開催され、213,524 千円となり、前年度比+24,249 千円で率にして+11.4%と過去最高となっています。
- ③ サンメッセは Web 等により平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大に努めました。コロナの影響で病院や老人ホームへの販売や納品を中断、各種販売イベントは徐々に開催されており、昨年初出店した「パンのフェス」へ今年も参加しました。今回もフェスで開催されたパン屋さんの新商品のアワード(表彰)がおこなわれサンメッセの新商品「ハッピー餃子ぱん」が見事「ぱんてな賞」(審査員特別賞)と「シルバー賞」をダブル受賞しました。利用者みなさんの技術、熱意が評価されたことが一番うれしいことです。「湘南みかんぱん」の平塚市ふるさと納税返礼ギフトは 11 件の注文でした。平成 30 年 4 月より湘南ひらつか名産品としても認定され、令和 5 年 2 月にあらためて認定されました。今後も生産事業の販路拡大と衛生管理の徹底に努めてまいります。
- ④ ルネッサンスの農産品加工事業は、10 年目を迎えました。令和 3 年 2 月 19 日に認証を取得した HACCP(食品の製造過程管理基準)に基づく衛生管理に努めてきました。コロナ禍で通信販売が好調で 14,440 千円と過去最高となりました。また受託加工も増えていきます。「湘南とまと

工房トマトジュース」は「平塚市ふるさと納税返礼品」に登録され第 62 回全国推奨観光審査会において「全国推奨観光土産品」として認定されています。また、「湘南ひらつか名産品」として再び令和 5 年度から令和 9 年度の期間、認定を受けることが出来ました。お客様のニーズに応えるためにスクリュウキャップの導入や食の安全性向上のために金属検出機の導入を行いました。6 次産業化ネットワークの活動を継続し、事業の推進に努めました。

- ⑤ いのちの森づくりは(株)研進と協同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村、NEXCO 高尾・小仏植樹祭、新東名秦野丹沢の植樹等に参加しました。また豊島区より緑化推進のための苗木配布も行っています。苗木の出荷数は 22,805 本となりました。平成 21 年度よりスタートした森づくりプロジェクトは累計出荷数 347,299 本となりました。さらなる開拓を推進し、他法人施設との連携（どんぐりブラザーズ）に努めてまいります。
- ⑥ 施設外就労は継続して、地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業を請負いました。仕事への取り組みが評価されバックヤードグループを増班することが出来ました。令和 4 年度も各店舗にて進和学園自主製品を販売する「進和学園フェア」を定期的実施させていただき連携を深めました。(株)ゴバイミドリ様よりの作業請負も引続き取組みました。
- ⑦ 在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用は、しまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となりました。制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めました。
- ⑧ ルネッサンスは湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進してまいりました。受注量、連携事業所も増えてきており、更なる協力体制に努めました。現在水道メーター分解、どんぐり関係、公園清掃の中で 13 事業所と連携をしています。また、平塚市ビルメンテナンス業協同組合様より平塚市聖苑の除草作業を受注し推進しました。
- ⑨ 「ともしびショップ湘南平」は、平成 28 年度より「サンメッセしんわ」と一体的に運営し、1 階の喫茶部門は、ホットケーキの店「湘南リトルツリー」（平成 30 年 3 月 25 日内装改修しリニューアルオープン）として進和学園内で生産するパン類やトマトジュースなどを食材として活用するメニューを揃えました。販売部門は自主生産品やお土産グッズ等を常設販売しました。令和 4 年度は新型コロナウイルス感染予防を徹底して営業をおこないました。また、利用者ご本人の実習は 4 月から再開し就労支援を実施しました。2 階は活動スペースエリアとして幅広く活用できますが、令和 4 年度は引き続き感染予防の対策としてサンメッセご本人の作業や家族ボランティアの工房は自粛しました。
- ⑩ 平塚市役所の 1 階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は令和 4 年 7 月で丸 8 年を迎えました。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、進和学園はその事務局を担当し事業を推進しました。多くのお客様にご来店いただき、また平塚市からの優先調達や市内企業による継続的なご発注もあり売上向上につながりました。売上は 9,508 千円で過去最高となりました。また生産事業推進会議パフォーマンス部会の FM 湘南ナパサ 78.3MHz のラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜 20:00~20:30)に利用者ご本人が中心に参画し、福祉現場からの情報発信、福祉啓発に努めました

10 本人活動

しんわ本人自治会連合会では、「自分で選んで自分で決める」「本人中心」を徹底してまいりまし

た。しかし、令和 4 年度も新型コロナウイルス感染は続き、「しんわ本人自治会連合会定例役員会」は対面では行えずリモートでの開催、「しんわ本人自治会連合会決算総会」につきましても書面での議決となりました。

しんわ本人自治会連合会が中心となり年末募金活動を実施しました。募金のお届けは新型コロナウイルスの影響で日程を調整し、令和 3 年度分を令和 4 年 11 月 21 日に平塚市長並びに各団体にしんわ本人自治会連合会役員代表がお届けしました。さらに、「しんわ文化スポーツ振興会」との協力体制のもと、実施してきました余暇の同好会活動や各種行事は、コロナ禍において限られた活動となってしまったため、昨年度同様、施設内の活動で余暇の充実に努めました。

1 1 しんわさわやか相談室

例年あじさいまつりの期間中に法人さわやか相談室を開催し、各事業所からの報告を基に法人相談員の方々との意見交換が行われましたが、やましろホームが新型コロナウイルスのクラスター感染となった事や感染拡大防止のためにあじさい祭りを中止したこともあり、残念ながら令和 4 年度も中止とし、相談員の方々には書面報告としました。各施設においては日頃より多様な相談を貴重なご意見として受けとめ、真摯な対応に努めました。令和 4 年度は令和 3 年度と異なり、新型コロナウイルスに関係する相談よりも、生活や支援に関する相談が多くなりました。

1 2 主な全体行事

- ① あじさいまつり・さわやか文化スポーツ大会・こころのかたちアート展につきましては、コロナ感染が収まらず、残念ながら中止となりました。湘南ひらつか七夕まつり(令和 4 年 7 月 8 日(金)～7 月 10 日(日))につきましては、規模縮小ながらも 3 年振りに開催となりました。進和学園から「みんな笑ガオー！で みらいにトライ！」をテーマに竹飾りを掲げました。竹飾りコンクールでは「入選」となりました。令和 4 年の干支「寅」と平塚市市制 90 周年をイメージした飾りが好評で、皆さんに喜んでいただくことができました。
- ② 昨年度に引き続き本田技研工業様とのあじさいまつりでの交流は自粛させていただきました。クリスマス会につきましては、3 年振りに Honda 購買部門の担当者をお迎えして、クリスマス交流会を開催しました。あじさいまつりは残念ながら中止としましたが、800 名近い学園関係者に T シャツやクリスマスプレゼントを寄贈くださいました。
- ③ 天神まつり
地元自治会及び地域の皆さまにお集りいただき毎年天神まつりを計画していましたが、令和 4 年度もコロナウイルス感染防止のため、地域を交えてのイベントは中止しました。1 月 25 日の初天神の日に、規模を縮小して、万田ホームの利用者、職員にてお参りをしました。

1 3 月報しんわ

進和学園の活動報告や情報発信の手段として、「月報しんわ」を昭和 50 年より発行しています。月報編集委員会が中心となって、読みやすく且つ内容の充実に努めました。令和 4 年度もコロナの影響による活動自粛を受けて、3 か月ごとに 1,386 部を発行しました。関係者はじめ地域、ボランティア社会ご支援者、行政に配布し、ホームページでも公開し情報開示に努めました。

IV<<職員の処遇について>>

一人一役を合言葉に、一人ひとりが学園運営に参加することを主眼に各種事業を展開しました。

1 職員互助会について

職員の福利厚生を推進するため、法人全職員参加のもとに互助会を設立して 26 年。有効に運用され、職員の安心感は深いものがあります。令和 4 年度は職員健康共済規定出産休業援助事業による出産給付金支給は 7 名（給付 1,039,418 円）、一般疾病による療養給付金支給は 10 名 16 件（給

付額 1,654,170 円)、傷害保険の利用は 10 名 11 件(保険金 697,000 円)でした。しんわ家族会様には、互助会設立以来継続しての助成に深く感謝いたします。

2 労務について

職員がより一層働きやすくなる環境を構築するため、労務委員会と協議調整して風通しの良い職場づくりに努めました。規定類については、令和 4 年度より育児・介護休業の一部改正に合わせて育児休業規定に産後パパ育休等の条件を追加、またハラスメント防止規程を新規で整備しました。処遇改善加算については職務手当として月額支給に切り替え、月給及び時給単価増額の改善を図りました。労務委員会を通して提案のあった通勤手当の見直しなど、労務に係る諸条件については公平性の観点から改善に向けて検討を重ねました。

3 永年勤続表彰感謝について

令和 4 年度永年勤続者は、勤続 5 年(21 名)、10 年(15 名)、15 年(4 名)、20 年(8 名)、25 年(4 名)、30 年(1 名)、35 年(6 名)、計 59 名でした。新型コロナウイルスの感染拡大により、例年 6 月に実施していた全員での感謝式は延期し、障害部門は 12 月 7 日(水)、8 日(木)、12 (月) 保育園部門は 12 月 26 日(月)に分散して行い、感謝金を贈り表彰感謝を実施しました。

4 年度末の職員数 414 名のうち、継続職員 259 名、嘱託職員 24 名、準職員 131 名となります。(常勤職員率 68.35%。内訳は男性 88.96%、女性 54.15%)

男性職員は 154 名、平均勤続年数 15.14 年、平均年齢 43.96 歳です。

女性職員は 260 名、平均勤続年数 9.67 年、平均年齢 45.05 歳です。

V 《理事会・評議員会の開催状況について》

<p>理事会 令和 4 年 6 月 2 日 (木)</p>	<p>書面評決</p>	<p>第 1 議案 令和 3 年度事業報告について 第 2 議案 令和 3 年度決算報告について 社会福祉充実残額について 監事監査報告について 第 3 議案 平塚市指導監査結果報告に係る改善報告について 第 4 議案 生活困窮者自立支援法に基づく就労訓練事業について 第 5 議案 定款変更について 第 6 議案 育児休業規定の一部改定について 第 7 議案 サンメッセ・やえくぼの運営規程の一部改定について 第 8 議案 次回評議員会の日時及び場所、議題について 報告事項 理事長の職務執行状況報告について しらゆり保育園隣接地取得の進捗状況について しんわやえくぼの安全対策に係る総合整備計画の進捗状況について</p>
<p>評議員会 令和 4 年 6 月 21 日 (火)</p>	<p>書面評決</p>	<p>第 1 議案 令和 3 年度事業報告について 第 2 議案 令和 3 年度決算報告について 社会福祉充実残額について 監事監査報告について 第 3 議案 役員等の報酬規程の一部改定について 報告事項 令和 4 年度事業計画について 令和 4 年度当初予算について</p>

<p>理事会 令和 4 年 12 月 15 日 (木) 10:00~12:00 しんわブライト</p>	<p>理事 8 名 監事 2 名</p>	<p>第 1 議案 令和 4 年度第 1 次資金収支補正予算について 第 2 議案 しらゆり保育園の隣接地取得の進捗状況について 第 3 議案 しんわルネッサンス製パン作業室の整備計画について 第 4 議案 運営規程の一部改定について 1 平塚市の住居表示実施に伴う改定について 2 富士見保育園主食の提供に伴う改定について 第 5 議案 平塚市子どもの未来支援事業 「支援対象児見守り (居場所型)」について 報告事項 理事長の職務執行状況報告について 生活困窮者自立支援法に係る認定就労訓練事業の認定について 住居表示の実施に伴う事業所等の住所変更について 障害者就業・生活支援センター事業評価委員会報告について</p>
<p>理事会 令和 4 年 3 月 23 日 (木) 10:00~12:00 しんわブライト</p>	<p>理事 8 名 監事 1 名</p>	<p>第 1 議案 令和 4 年度第 2 次資金収支補正予算について 第 2 議案 令和 5 年度事業計画 (案) について 1 法人事業計画・日程について 2 利用者状況 (市町村別一覧) について 3 運営組織図並びに施設長・職員配置表について 4 職員構成表並びに採用職員について 5 総合支援サービス計画図について 6 生産事業推進計画について (事業計画図・自主製品販売先一覧) ・しんわルネッサンス製パン作業室整備計画 第 3 議案 令和 5 年度当初予算 (案) について 第 4 議案 県指導監査結果報告 (障がい部門) に係る改善報告について 第 5 議案 規程等の一部改定について 1 給与規程 2 ビーライト・ブライト運営規程 第 6 議案 定款変更について 第 7 議案 次回評議員会の日程及び場所、議題について 報告事項 理事長の職務執行状況報告について しらゆり保育園隣接地取得に係る報告 しんわやえくぼ急傾斜地崩壊対策工事について 役員賠償責任保険の加入 (更新) について</p>

令和 5 年 6 月 8 日
社会福祉法人 進和学園